



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターンシップやアルバイトによる能力形成と就職活動との関連についての実証分析：大学生に対するアンケート調査結果から
Author(s)	亀野, 淳
Description	日本インターンシップ学会第19回大会. 2018年9月3日-2018年9月4日. 香蘭女子短期大学, 福岡県福岡市
Issue Date	2018-09-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74586
Type	conference presentation
File Information	HUSCAP_JSI19.pdf



インターンシップやアルバイトによる能力形成 と就職活動との関連についての実証分析 — 大学生に対するアンケート調査結果から —

2018.9.4

日本インターンシップ学会@香蘭女子短期大学
亀野 淳 jkameno@high.hokudai.ac.jp

0.本報告の概要

1. 本研究・報告の趣旨・目的
2. 本報告で明らかにしたいこと
3. 研究方法
4. 分析結果
5. まとめと課題

1. 本研究・報告の趣旨・目的

1. 1 はじめに

- 学生の就職志向が大企業に集中し、企業も学生の能力を十分に把握できないなど双方の情報不足・ミスマッチが存在
- 大学におけるインターンシップは就業体験型の1～2週間型が中心であり、企業側の協力が不可欠であるが、そのメリットが不明確である。

1. 2 インターンシップを就職・採用に活用することに関して

- 文部科学省・厚生労働省・経済産業省『インターンシップの推進に当たっての基本的考え方』（平成27年12月10日改正版）

別紙「企業がインターンシップ等で取得した学生情報の広報活動・採用選考活動における取扱いの考え方について」

「学生情報は、広報活動・採用選考活動に使用できない」

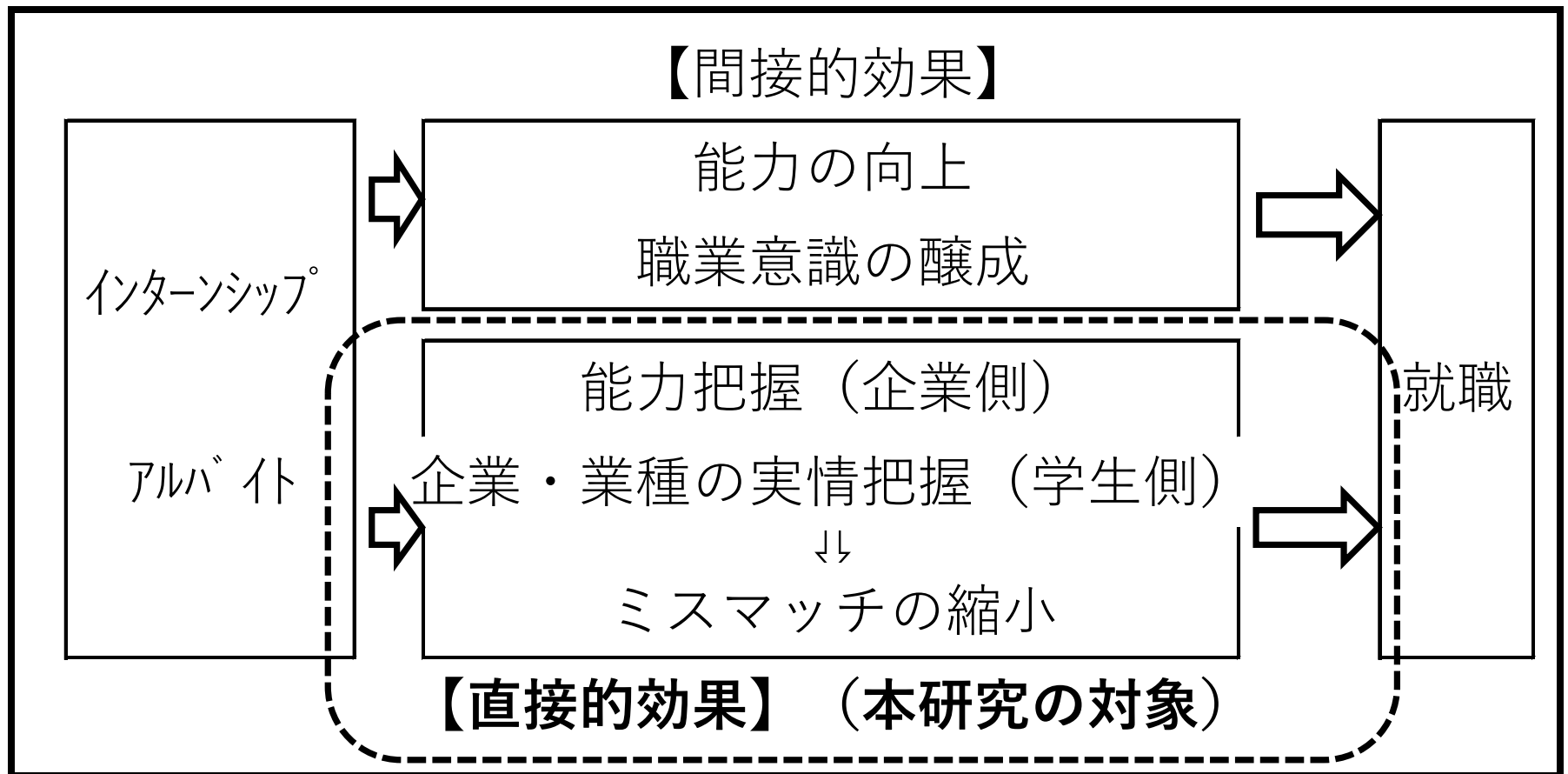
かなり強い歯止め

1.3 世界的な状況

Acemoglu and Pischke(1999)

「職場でインターンシップなどの訓練生を受け入れるメリットとして訓練生の情報上の優位性を利用できることやこうした採用上の優位性は労働市場の特性などに左右される」

図表 1 本研究の対象



1.4 亀野の研究

『インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究』
(JSPS科研費 JP22330225)(亀野(2016a)、亀野(2016b)、亀野(2017))。

- ①国内では、インターンシップ経由の新規学卒者(大卒)の採用は全体の2%程度である。
- ②インターンシップと就職・採用を関連付けることについての賛否については、賛成が過半数であるが、制度・ルールの明確化など課題も多い。

2. 本報告で明らかにしたいこと

○インターンシップと就職の関係

○就職先＝インターンシップ企業の属性、意識、就職先の特徴（就職先≠インターンシップ企業との比較で）

インターンシップが学生・企業双方にとって情報の把握に役立つ

- ・インターンシップの期間が長い
- ・就職目的でインターンシップに参加
- ・インターンシップの機会が多い大都市圏の学生が有利
- ・企業側からの誘いもあり
- ・規模が小さい方が情報を把握しやすい
- ・就職の満足度が高い

3. 研究方法

- 筆者が実施した「インターンシップを活用した新たな就職・採用システムの構築に向けた実証的研究」におけるアンケート調査
- 就職が内定した大学4年生を対象者として、2018年1月に株式会社クロス・マーケティングを通じてインターネット上の質問紙により955名の回答
- 回答者の内訳(要旨収録P〇:図表2)

「学校基本調査」の就職者(正規の職員等)の割合と比較すると、本回答の方が女性、人文科学、南関東の回答割合がやや高い。

性別、地域ブロック(10分類)、学部(11分類)の割合をベースにウェイトバックした回答をもとに分析

4. 分析結果

4.1 インターンシップの参加の概況

図表3 インターンシップ参加の有無と参加者の平均社数、平均日数、1社当たりの平均日数

		参加あり		参加なし		計	平均社数	平均日数	1社あたり 平均日数
		人数	割合	人数	割合				
合計		485	50.8%	470	49.2%	955	3.6	11.0	3.0
性別	男性	237	49.0%	247	51.0%	484	4.1	11.3	2.8
	女性	248	52.7%	223	47.3%	471	3.2	10.7	3.3
学部	人文科学	79	53.4%	69	46.6%	148	3.3	11.2	3.5
	社会科学	225	62.2%	137	37.8%	362	4.1	12.0	2.9
	理学	7	35.0%	13	65.0%	20	3.3	5.5	1.7
	工学	48	41.0%	69	59.0%	117	2.0	7.4	3.7
	農学	17	63.0%	10	37.0%	27	6.4	10.7	1.7
	保健	32	34.0%	62	66.0%	94	3.9	7.1	1.9
	家政	10	29.4%	24	70.6%	34	2.5	5.3	2.1
	教育	27	37.5%	45	62.5%	72	2.8	17.6	6.3
	芸術	6	31.6%	13	68.4%	19	4.1	17.5	4.3
	その他	35	55.6%	28	44.4%	63	3.0	9.5	3.1

		参加あり		参加なし		計	平均社数	平均日数	1社あたり 平均日数
		人数	割合	人数	割合				
大学所在地	北海道	19	57.6%	14	42.4%	33	3.3	8.1	2.4
	東北	23	44.2%	29	55.8%	52	2.6	4.4	1.7
	南関東	195	56.2%	152	43.8%	347	3.9	11.0	2.8
	北関東・甲信	22	41.5%	31	58.5%	53	2.6	4.3	1.7
	北陸	20	46.5%	23	53.5%	43	2.4	7.4	3.1
	東海	34	41.0%	49	59.0%	83	2.4	10.9	4.6
	近畿	94	51.1%	90	48.9%	184	3.8	15.4	4.0
	中国	26	49.1%	27	50.9%	53	3.2	10.0	3.1
	四国	11	50.0%	11	50.0%	22	1.8	12.0	6.8
	九州	42	50.0%	42	50.0%	84	5.5	12.0	2.2

4.2 就職予定先がインターンシップ参加企業の一つである学生の特徴

①属性(性別、学部別、大学所在地別、就職予定先)

図表4 就職予定先がインターンシップ参加企業の一つである学生の属性

		就職予定先がインターンシップ参加企業の一つである学生		
		人数	インターンシップ参加者に占める割合	全学生に占める割合
合計		137	28.2%	14.3%
性別	男性	68	28.7%	14.0%
	女性	69	27.8%	14.6%
学部	人文科学	20	25.30%	13.5%
	社会科学	56	24.90%	15.5%
	理・工・農学	19	26.00%	11.6%
	その他	42	38.50%	14.9%
大学所在地	南関東	57	29.2%	16.4%
	東海・近畿	26	20.3%	9.7%
	地方圏	54	33.1%	15.8%

		就職予定先がインターンシップ参加企業の一つである学生		
		人数	インターンシップ参加者に占める割合	全学生に占める割合
就職予定先 業種	農業、林業、漁業、鉱業、採石業、砂利採取業	4	33.3%	16.0%
	建設業	5	17.2%	9.4%
	製造業	16	28.1%	16.3%
	電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	0.0%
	情報通信業	18	26.9%	15.9%
	運輸業、郵便業	4	14.8%	9.5%
	卸売業、小売業	11	45.8%	22.4%
	金融業、保険業	12	27.3%	15.6%
	不動産業、物品賃貸業	3	27.3%	15.8%
	学術研究、専門・技術サービス業	0	0.0%	0.0%
	宿泊業、飲食サービス業	1	7.7%	4.8%
	生活関連サービス業、娯楽業	3	27.3%	12.0%
	教育、学習支援業	5	17.9%	8.1%
	医療、福祉	27	49.1%	18.1%
	複合サービス事業	1	7.7%	4.2%
	サービス業（他に分類されないもの）	13	25.0%	13.3%
	わからない	13	46.4%	19.7%
就職予定先 従業員規模	99人以下	12	22.6%	9.4%
	100～299人	17	19.1%	10.1%
	300～999人	25	25.5%	15.4%
	1,000～4,999人	45	37.8%	21.6%
	5,000～9,999人	18	60.0%	32.7%
	10,000人以上	11	22.9%	12.6%
	わからない	9	19.1%	6.2%

②インターンシップの時期、期間

図表5 内定先インターンシップ企業
へのインターンシップ参加時期

時期	%
1年生	0.8
2年生4～6月頃	0.0
2年生7～9月頃	3.7
2年生10～12月頃	7.4
2年生1～3月頃	5.5
3年生4～6月頃	5.6
3年生7～9月頃	23.9
3年生10～12月頃	21.7
3年生1～3月頃	30.3
4年生4～6月頃	5.8
4年生7～9月頃	5.7
4年生10～12月頃	3.9

図表6 インターンシップ実働日数（%）

	3年生7～9月頃	3年生10～12月頃	3年生1～3月頃
1日間	32.2	49.1	47.2
2日間	5.3	5.6	24.4
3～5日間	37.0	37.5	23.6
6～10日間	16.0	7.8	3.6
15日間以上	9.4	0.0	1.1
合計	100.0	100.0	100.0

③インターンシップの社数、日数の相違

図表 7 就職予定企業はインターンシップ先の一つである学生とそうでない学生の在学中のインターンシップ参加状況の差

	就職予定先 = IS参加企業	就職予定先 ≠ IS参加企業	
社数	5.2	3.0	***
日数	16.4	8.9	***
1社あたりの日数	3.1	2.9	

***: $p < 0.01$ 、**: $p < 0.05$ 、*: $p < 0.1$ 以下同様。

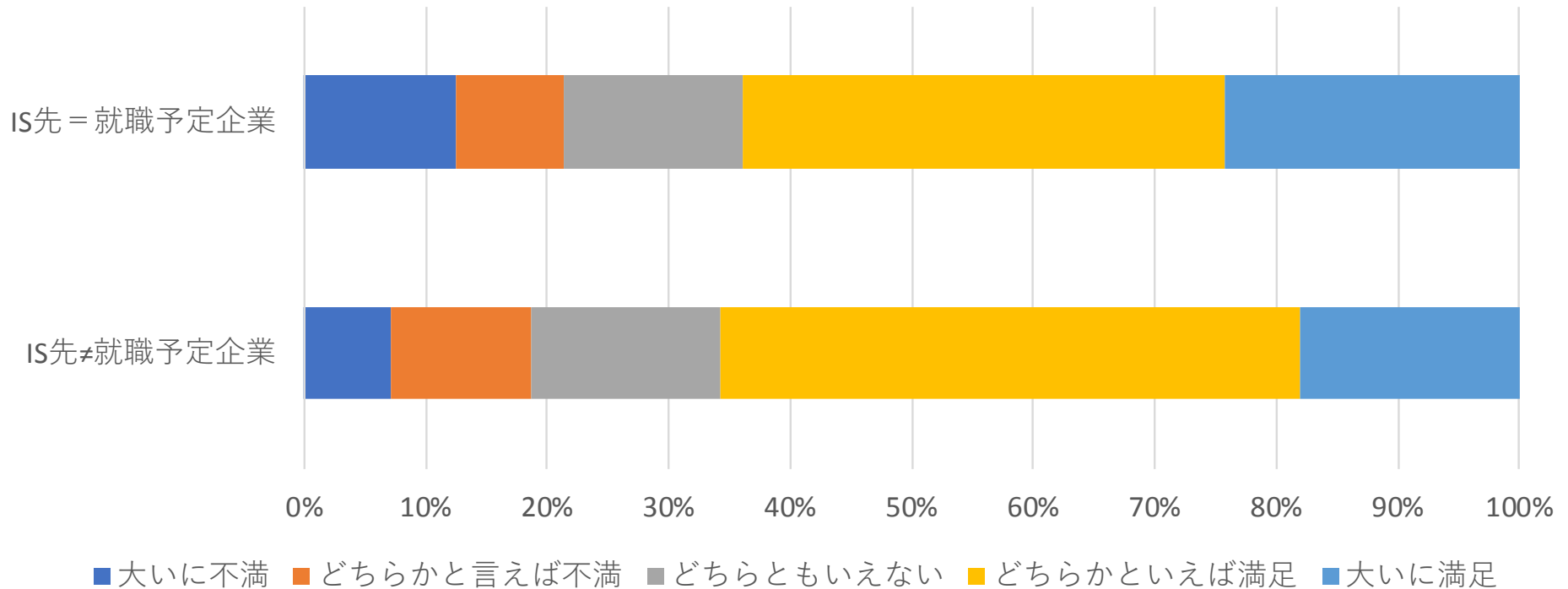
④ インターンシップの参加目的

図表 8 就職予定企業はインターンシップ先の一つである学生とそうでない学生のインターンシップ参加目的（第 1 位）の差

		IS先 ≠ 就職 予定企業	IS先 = 就職 予定企業	計
1	インターンシップ先の企業が就職希望の企業であったから	7.4%	17.4%	10.2%
2	就職希望である業種の実情を知りたかった	33.7%	36.2%	34.4%
3	自分がどういう職業や業種に向いているのかを知りたかった	12.6%	11.6%	12.3%
4	社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知りたかった	10.9%	8.7%	10.2%
5	ビジネスマナーを身につけたかった	2.9%	0.7%	2.3%
6	学校での勉強と実社会との関連性を見つけたかった	7.7%	7.2%	7.6%
7	学校での専攻分野に関連する業界の実情を知りたかった	0.9%	0.0%	0.6%
8	社会経験を通じて自分に足りない能力を見つけたかった	1.7%	2.9%	2.0%
9	働く能力を向上させたいと思ったから	1.7%	2.2%	1.8%
10	今後の学生生活の目標を明確にしたかった	2.3%	2.2%	2.3%
11	学校での単位取得のため	3.7%	2.2%	3.3%
12	自分の研究や卒論のテーマをみつけるため	0.9%	1.4%	1.0%
13	参加したほうがよいと誰かに言われたから	7.4%	3.6%	6.4%
14	先輩などを見て参加したほうがよいと思ったから	3.4%	2.2%	3.1%
15	その他	2.9%	1.4%	2.5%
1～2	就職先を意識した理由	41.1%	53.6%	44.7%
3～9	「働く」ことを意識した理由	38.3%	33.3%	36.9%
10～12	大学生活と関連した理由	6.9%	5.8%	6.6%
13～15	消極的理由・その他	13.7%	7.2%	11.9%
合計		100.0%	100.0%	100.0%

⑤就職予定先の満足度、就職活動の自己評価

図表 9 就職予定先の満足度



図表10 就職活動の自己評価 (100点満点中)

	IS先 ≠ 就職予定企業	IS先 = 就職予定企業	
就職活動の点数	67.0	72.0	**

プロビット分析 (補論)

図表11 IS先＝就職予定先を規定する要因（プロビット分析）

	B	B
IS企業に参加した企業から勧誘を受けた	0.957 ***	
IS参加理由が就職を意識した理由	0.429 ***	0.343 **
社会科学D	-0.145	-0.171
理系D	-0.163	-0.115
学部その他D	0.194	0.2
IS社数	0.027 *	0.031 **
IS日数	0.011 ***	0.013 ***
就職予定企業の満足度	-0.007	-0.055
就職活動点数	0.006	0.007 **
性別D（男性＝1）	0.18	0.183
南関東D	-0.321 *	-0.21
東海・近畿D	-0.62 ***	-0.533 ***
建設業D	-0.261	-0.424
製造業D	0.019	-0.174
情報通信業D	0.018	-0.157
運輸業、郵便業D	-0.937	-1.051 *
卸売業、小売業D	0.469	0.358
金融業、保険業D	-0.104	-0.299
教育、学習支援業D	-0.438	-0.636
医療、福祉D	0.34	0.363
その他、わからないD	-0.054	-0.2
規模100～299D	-0.022	-0.044
規模300～999D	0.149	0.228
規模1000～4999D	0.459 *	0.516 **
規模5000以上D	0.494 *	0.539 **
規模不明D	0.212	0.053
n	485	485
Cox と Snell	0.239	0.163
Nagelkerke	0.344	0.234

ダミー変数の基準は、学部は人文科学、地域は地方圏、業種は農林水産業、規模は99人以下。

5. まとめと今後の課題

5.1 分析結果のまとめ

- 就職が決まっている学生の約半分はインターンシップの参加経験があり、そのうち約3割が就職予定先にインターンシップ経験があり。つまり、約15%がインターンシップ先企業に就職
- しかし、インターンシップ自体の期間は短い
- 就職目的でインターンシップに参加している
- 大都市圏の学生が多いとはいえない
- 企業からの誘いを受けた学生が多い
- 従業員規模が大きい企業に内定している学生ほど当該企業のインターンシップに参加している
- 満足度が高いとは必ずしもいえない

5. まとめと課題

5.2 課題

- 地域別の相違の説明
- インターンシップの内容による相違
- 大学生活との関係
- 企業の意向
- 就職活動全体の中でのインターンシップの位置づけの解明